

◆インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞◆

〈学校教育部門〉

「インターネットで広がる国際交流活動」

仙台市立人来田小学校

〒982-0222 仙台市太白区人来田1-1-1

■実践事例報告の概要

インターネットを最大限生かして外国の小学校とコミュニケーションを楽しむことをねらった結果、①翻訳サイトの活用により、英語に対する抵抗感が下がったこと②インターネットで外国の人と話す体験は、英語学習への意欲を高めたこと③交流体験が地図や時差の理解につながったこと④絵や描画などを使って、相互理解のコミュニケーションのあり方を学ぶことができたことという4つの成果が上げられた実践に対する報告である。

実践のねらい

本実践では、インターネットを最大限生かして外国の小学校とコミュニケーションを楽しむことをねらいとしている。外国との交流は英語の壁がある。しかし、インターネットを活用し、交流の環境を整えることで、小学生がどこまで交流ができるのかを検証する。

特徴・工夫・努力した点

(1)特徴

翻訳サイトや描画ツール、音声を生かしたインターネット環境により、英語への抵抗感を無くし、身近に感じて交流できるところが特徴である。これは、コミュニケーション能力を高める指導や異文化理解の指導などにも広げることができる。

(2)工夫・努力した点

- ①翻訳サイトやお絵かきソフトを活用し、英語の自己紹介カードを作成して交流した。
- ②Webアルバム、Skype、バーチャル教室のシステムを交流校の先生から教えてもらい小学生でも可能な交流方法に発展させていくことができた。

実践内容

(1)実践例1：eメールの活用

オーストラリアの小学校と絵画交流を行った。送られてきた絵を見ている写真や絵を見た感想をMpegムービーで録画したファイルを相手校に送り、相手校からも版画を見ている写真や何の絵かを話し合っている様子やコメントが届いた。

外国からの感想を聞いたときのうれしさから相手にコメントを伝えることの大切さを学んだ。

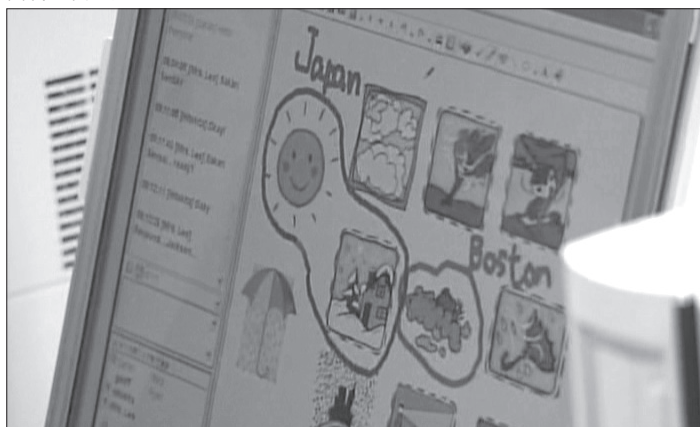
(2)実践例2：名前を書く、絵を描く、写真を見せる、話すバーチャル交流

アメリカの小学校の先生とバーチャル教室で交流をした。挨拶を交わし、自分の名前を英語で紹介し、名前を書いて見せ、好きなスポーツを聞かれて英語で答えることができた。

インターネットで電話のように話せることに驚き、さらに、英語が分からなくても絵を描いたり(資料)写真を見せることでコミュニケーションがとれることを学んだ。

(3)実践例3：ニュージーランドの小学生とライブで話す

アメリカの小学校とは時差の関係でライブで話すことはできなかった。そこで、時差の少ないニ



ニュージーランドの小学生とSkypeを使って話す活動をした。挨拶や自己紹介、好きな食べ物やスポーツのことを互いに紹介できた。

実際に話す活動はとても印象深い活動だった。

実践結果

(1)成果

- ①翻訳サイトの活用により、英語の言葉に対する抵抗感が下がった。小学生には不可能に近かった英語を読む、英語を書くという活動がインターネットで可能になった効果は大きい。英語で作ってみよう、英文の意味を調べてみようという姿勢が見られ、インターネット活用の一つのツールとして身に付けることができた。積極的にコミュニケーションをとろうという態度にもつながってきた。
- ②インターネットで外国の人と話すことができる体験は、驚きとともに、活動そのものにおもしろさがあり、とても興味深く取り組んでいた。英語の挨拶や自己紹介など、覚えた英語を試すよい機会となった。もっと英語を覚えて話したいという積極性も出てきた。
- ③地図や時差のことがよく分かってきた。アメリカのどこの都市か、ニュージーランドはどこにあるのかを地図で探しながら、世界地図の理解が深まった。また、話す相手に時間を尋ねる活動をしてきた結果、時差について理解し地図にある時計表示の意味も理解することができた。

アメリカと日本では曜日も違うので、日付変更線の理解もできた。

- ④まず自分のことを話す、分からないときは分からないとはっきり言う、相手に分かりやすいように、いろいろな表現方法で伝えるなどコミュニケーションのあり方を学んだ。

考察（今後の課題）

(1)インターネット交流の効果

地図や教科書を暗記するよりも実際に「ニュージーランドの6年生と話した」というように、バーチャルではあるが体験を組み合わせたほうが効果的に学ぶことができる。

今回の交流活動はインターネットの環境が整ってきたことによる効果大きい。翻訳サイトは、小学生が無理とされていた英文理解の領域を可能にしてくれた。国際交流活動ではデジタル化された文章がコミュニケーションツールとして必要不可欠な存在となっていることが本実践からわかる。このことによりコンピュータを使った文章作成の能力の向上はコミュニケーションとしても重要な役目を果たすことになってくる。

今回の交流では、挨拶や自己紹介が中心であった。今後、外国の小学校と手軽にインターネット交流が可能になると、自己紹介や挨拶だけでは交流が続かないのではないかと思った。同じテーマで交流したり、一緒に調べたりする活動も視野に入れて交流を考えていきたい。